



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	博士人材支援におけるURAの役割と可能性：フェローシップ申請の例から
Author(s)	澤田, 真理子; 森岡, 和子; 飯塚, 理恵
Description	RA協議会第8回年次大会：リサーチ・アドミニストレーション機能の拡充による研究力強化への取り組み. 2022年8月30日(火)-8月31日(水). 主催：リサーチ・アドミニストレーション協議会. 仙台国際センター (対面&Web配信ハイブリット開催). 仙台
Issue Date	2022-08-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/96177
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/
Type	conference poster
File Information	2022RA_P-11A0.pdf



【概要】

北海道大学文学研究院では部局URAが、アカデミアを含めた社会の多様な場での博士人材の活躍促進に向けた様々な支援を積極的に行っており、大学院生向けの支援では「研究」と「教育」が重なる部分も多い。その一つとして、2021年度に開始した博士後期課程大学院生を対象としたJST次世代研究者挑戦的研究プログラム学内フェローシップ申請支援では、対象学生への情報提供に始まり申請書作成支援だけではなく教育プログラム参加やキャリア形成支援も行っている。ここでは、文学研究院での具体的な取り組みや支援の紹介と事例を報告すると共に、特に人文社会学系分野での博士人材支援におけるURAの役割と可能性について提案したい。

北海道大学大学院文学研究院における若手研究者 >>> 大学院生（MC&DC）と博士号取得後10年以内のポスドク

ポスドク支援

専門研究員制度

文学院博士後期課程修了者（課程博士の学位取得）の研究の継続を支援。研究を遂行するために必要な施設、図書、および設備を利用可能とし、積極的な科研費や助成金、学振特別研究員PD、海外特別研究員、留学生については外国人特別研究員などの応募を促す。

共同研究員制度

文学院で博士号（課程・論文）を取得後、研究職以外の職に従事しながら研究を継続する研究者を支援。科研費などの競争的外部資金の申請を可能にする。

出版助成

人文社会学系分野では、博士論文を書籍化・出版することで、研究者としての第一歩を踏み出す分野もあるため、主に専門研究員を対象に、毎年1件「楡文叢書」として博士論文の出版を支援。

大学院生支援

旅費支援

国際会議や全国学会での研究発表やフィールドワークの研究調査で

必要な旅費のうち交通費を支援

オンライン開催学会参加費支援

2020年度以降コロナ禍で多くの学会がオンライン開催されたことに伴い、オンラインで開催される国際会議や全国学会で発表する際の参加費を支援

校閱費支援・日本語校閲（留学生向け）

国際会議や国際学術誌、英文ジャーナル等への日本語以外の言語で書かれた発表原稿や投稿原稿の添削費を支援、留学生向け日本語校閲支援も新しく開始

RA成果報告ポスター作成支援

リサーチ・アシスタントに採用された博士後期課程の学生がアウトリーチ活動として、研究成果報告ポスターを作成する。その際、学会や研究会とは異なり一般向けに研究内容が理解しやすいポスターとなるように効果的な情報デザインや伝わるレイアウトなどのアドバイスや制作支援を行う。

外国人留学生キャリア支援（他部局と協力）

I-HoP (Hokudai International Human Resource Development Program)が主催する留学生や海外からの研究者向けキャリアセミナー・イベントの周知
学位取得後も日本に残って就職活動や研究活動を継続する際の在留資格取得支援→専門研究員

NEW! 学内フェローシップ申請支援（DX博士人材フェローシップ・アンビシャス博士人材フェローシップ）
情報提供、申請書作成支援、フェローシップ関連教育プログラム参加やキャリア形成支援 **NEW!**

学内フェローシップ申請支援事例 >>> 博士後期課程（博士在籍者と博士後期課程進学予定の修士課程2年生）

北海道大学DX博士人材フェローシップとは？

募集要項から以下抜粋

「国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が実施する「次世代研究者挑戦的研究プログラム」に基づき、我が国の科学技術・イノベーションを発展させ、重要課題を創造的に解決して未来を拓く力量を持つ卓越した博士人材を育成することを目的とします。このため、本学大学院に所属する博士後期課程及び博士課程の学生に対して、研究奨励費(生活費相当額)及び研究費を支給することで研究に専念できる環境を提供し、研究力の向上を図るとともに、「世界の課題解決に貢献する北海道大学」の実現に向けて、我が国におけるSociety 5.0実現のための社会変革の原動力となり得るDX改革を牽引する研究人材を育成することを目的とします。」
(<https://sites.google.com/eis.hokudai.ac.jp/dxphd-fellow/home>)

支給対象 >>> 北海道大学大学院博士後期課程・全部局・467名 **多い！部局ごとの申請人数に比例配分され学振DCや他の学内フェローシップに比較すると競争率は高くない＝人文社会学系専攻の学生にもチャンス**

申請者 >>> 北海道大学大学院博士後期課程在学学生または進学予定者 **経済的な理由で博士後期課程進学を迷っている修士課程の学生を支援することで将来の博士人材支援が可能！**

申請時期 >>> **これまで3回募集**2021年度第1回 2021年10月15日（2021年10月支給開始）第2回 2022年2月10日（2022年4月支給開始）2022年度第1回 2022年7月1日（2022年10月・2023年4月支給開始）

募集開始 >>> 申請期限の1～2ヶ月前 **短い！募集開始から実際に申請書様式や要項、詳細が分かるのは更にあとのため、申請者にとって準備期間に限りがある＝URAはそれまでの支援経験から効率的な支援が可能**

文学研究院URAの具体的な支援内容

情報提供

募集開始後、若手研究者支援メーリングリストやSNS等で広く募集内容を周知するとともに学生からの個別の質問に回答（電話・メール・対面）申請時に必要な関連教育プログラム参加やプログラムでのキャリア形成支援について詳しく案内

支援ポイントQ

申請書で求められている内容
「1研究背景、研究目的、研究方法、2挑戦的・融合的研究としての意義、3研究遂行能力、研究業績、4自身の専門的な研究内容にDXを活かした取組の実現可能性、5自己評価(志望動機、キャリアパス構想等)」の書き方についてアドバイス。募集要項や申請書の詳細が公開され、申請者向けセミナーが開催されるのが申請期限の2週間前のため学生が実質的に募集要項を理解し、申請書を完成させる時間が短い。申請書を初めて書く、自身の研究を文章にまとめたことがない、文学院のため“DX”と自身の人文社会学系研究をどうつなげればよいのか分からない学生への限られた時間内での効果的な支援が必要とされた。

面談と研究の棚卸

希望者に面談（オンラインまたは対面）を行う。申請書で求められている事についてのインプットと自身のこれまで・これからの研究について言語化・文章化するアウトプットを行い、“申請書を書く”準備という申請書作成一歩目を支援

ブラッシュアップ

作成した申請書をURAが添削し一両日中に返送。申請期限間際まで何度でも対応。添削は形式チェックから誤字脱字、特に留学生の場合は全く異なる意味になりうる助詞や接続詞の間違いが多いため申請書全体の文章校正チェックも含む

済

支援実績
R3第1回19名
R3第2回10名
R4第1回7名

メリットと課題

メリット

- ・博士後期課程進学を予定している修士課程の学生を把握できる
- ・研究室内で申請書の書き方や申請ノウハウを共有できない学生を支援できる
- ・フェローシップや申請に関する情報を文学院生向けにカスタマイズできる
- ・フェローシップ以外の若手研究者支援について周知できる
- ・学生個人では収集に限界がある支援情報を効率的に提供できる
- ・学振DC/PDや海外特別研究員などの申請にもつなげることができる
- ・多様なキャリアプランや学内セミナーなど個々の要求に対応できる
- ・研究推進室を知るきっかけになる

⇒将来の博士人材を長期的視野で支援可能

⇒フェローシップだけではなく学振や助成金、公募への申請にも応用可能

課題

- ・採否以外に支援の客観的評価ができないためURA業務としての外部からの評価が未知数
- ・科研費支援やセミナー開催と時期が重なると他の業務との並行が困難
- ・時間がかかるため、支援の量と質のバランスが難しい
- ・留学生の日本語問題※漢字文法構成が母国語のままではほぼ日本語として読めない申請書に割く労力大

解決案

- ⇒コロナ禍での業務オンライン化で蓄積されたノウハウやスキル、ツールを活用すると共に、申請者には“よくある質問”Q&Aを事前学習してもらいシステム化・効率化・可視化を図る
- ⇒博士後期課程進学、学振への申請有無や採否、学位取得後のキャリアまで継続的に検証する

【まとめ：部局URAだからできる博士人材支援における役割とその可能性】

理工学系では一般的に研究室内で申請書の書き方やポイントについて情報やノウハウが共有されることが多いが、文学院では研究室ごとに所属する学生数に偏りがあり、研究費や助成金などの申請書を書く経験を共有する機会が少ない学生が多い。また、人文社会学系を専攻する大学院生の特徴として、学生自身だけではなく身近な研究者が研究費を申請したりアカデミックポストや研究職以外で活躍するモデルケースを知る機会が少ないことも挙げられる。そういった中で、URAによる面談やメールでの申請書作成支援を通して自身の研究やキャリアプランについて新しい視点を得る機会を提供することは、人文社会学系分野における博士人材支援の1つになると考える。

